

赤林伸一

新潟の省エネ住宅

□1□



赤林伸一氏

性能と価格

食い違う宣伝と実物

新潟日報を愛読して八年目ですが、仕事柄、不動産情報や工務店の広告に目がいけます。最近の大手ハウスメーカーや工務店の広告には高断熱・高気密という文字がはらんとしており、いったいどんな住宅なんだという素朴な疑問が、家を建てようとしている人たちに持ち上がっています。

「普通断熱や気密の家」「高断熱・高気密の家」

しかし高断熱・高気密住宅であるとの宣伝文句を信じて購入した住宅が夏は暑く、冬にはすきま風で寒くとても住めるような環境でない場合も



普通の家に高断熱・高気密というセーブルストークを付けても一般のユーザーには分かりません。

そこで、これから新潟で家を建てようと考えている読者に、新潟の気候風

高気密住宅の広告には大抵「夏涼、冬暖」や「一台のストーブで全室暖房」といふ言葉がついており、これが本当なら大変魅力的な家なんだろなと想像してしまいがちです。

高断熱・高気密は住宅の性能を表す言葉の一つですが、私が今まで見てきた。た。

という言葉をきくると、たばのように付けると、たぢぢんに住宅の値段が一割へらぐ高くなり、工務店にとっては非常に打ち出しの小さいものになります。昨年のハウジング新潟に掲載している百社のうち五十七社が高断熱・高気密をうたっています。

住宅の値段を決めるものにはいろいろな要素が、当然の良の家で「風」に目を見えせんから、境性能評価

あり、訴訟を起して、現在裁判を行っている気の毒な例もあります。また、昔の家は百年以上立っているのに、最近の家は二十年へらいで取り壊されてしまつので、高断熱・高気密は良くなごう意見もあります。

ありますが、最も端的な例が面積とか間取り(2LDKだとか3LDK等)です。家を建てようとするとき、坪いくらという交渉から始まるのは、が逃げにくい性能や、すき間風が入ってこない性能を表していますが、断熱性能や気密性能は当然の良の家でも面積のよう

(新潟大学工学部助教 授・専門は住宅の居住環境性能評価)